

## 日本を貶めた売国政治家

10年前の2009年、小林としのりが音頭をとって、各界の論者に語らせている。私利私欲、自己保身にとらわれ、本来なら国家の繁栄と安寧、国益を望む強い姿勢がのぞまれるのが「政治家 Statesman」であろう。そういう意味では、たんなる政治屋 Politician である。国家の機密を他国に漏洩したりするものはスパイであるが、さすがに怪しい者はいなかったようだ。

10人の政治屋をあげているが、順位は「罪の大きさによって、決定している」ようであるが、国民の人気では判断していない。

なぜなら、「戦前も戦後もマスコミ大衆の『世論』がまともであった試しがない」からである。政治屋にとって「世論」だけが怖いというから情けない・・・・・・表現としては、国賊、売国奴、反日、非国民などいくつかあるが、ボク個人としては、国賊、売国奴が好み。

売国奴というのは、諸外国（というより中国共産党や韓国など）にもみ手で擦り寄るような「友好」という都合のいい言葉があるようだが、そういう輩はあらゆる公党にいる。彼らは、日本の歴史を知らない。東京裁判史観の反日・売国奴・国賊の叫ぶ言葉を信じ切っている・・・・・・つまり、何も考えていない。そんなに日本がいやなら、出ていけばいいのであって、誰も引き止めない。

たとえば、福田康夫のように、「他人の嫌がることはしない」と国益を損なうようなことを言う。こんなのは、小学校のクラスのスローガンじゃないか。一国を預かる総理の発言としては、失格である。国家は、自国の利益のために相手国と交渉するのが仕事である。

### 1. 売国奴といえば村山トン吉である。

その理由は、真実の歴史も知らずに東・東南アジア諸国に謝罪行脚をする。謝罪には、当然、賠償金が必要であるが、それも知らない。「日本なかりせば」のマハティール首相に窘められても、気づかない。このあたりが、首相の器ではないことをしめしているのだが、理解できていない。首相になった途端に、それまでまったく認めなかった自衛隊を認める。危機管理が全くできない。阪神大震災の時、米軍が援助を申し出たが、即断で断ってしまった。医師法が違うとか何とか、わけのわからん理由をつけて。（国境なき医師団の存在を知らない。）おまけに阪神大震災で自衛隊の投入ができなかった。自衛隊は満を持して待っているの

にである。兵庫県知事は自衛隊をきらっていたのだが、これも危機管理ができない政治屋である。課長か誰かの要請で自衛隊が動いた。それでも遅すぎて、多くの若者が焼死した。もう火がそこまできている。友人たちに向かって「ボクはもう駄目だ。君たちは早く避難してくれ」と悲痛な言葉を遺した。あるいは、一家そろって亡くなった家族もある。今でも覚えているのだが、ある家族は全滅し、父親と息子さんとが生き埋め状態で身動きできない。自衛隊が出動してから助け出されたが、息子さんは間に合わなかった。父親は、「もっと早く自衛隊が来てくれていたら助かったのに・・・」と怒っていた。気の毒だが、この家長は、両親も奥さんも、大事な息子さんまで失った。もはや年齢的に見ても再起はできないだろう、酒に溺れて亡くなってしまったのではないか。・・・で、この自衛隊の要請をした課長は、のちに左遷されたという。こんなバカな話もない。貝原は、県民の生命よりも、自衛隊が嫌いというだけで、多くの県民の生きる機会を奪ってしまった。罪万死に値する。

村山は、国会で追及されると、「なにせ初めてのことであり…」と言って満場の失笑を誘った。仮に、敵が上陸してきたとき、なにせ初めてのことであり、と手を挙げて降参するのか！ 結局、この政権では国を守れないし、朝鮮半島や中国共産党に気兼ねばかりして、国を滅びさせるだけだと国民は思った。社会党の連中は、土井たか子、辻元清美、などなど、いったいどこの国の国会議員なのか。発想の基本が朝鮮半島や大陸にある。辻元は「わずか 10 人のために国交回復をしない」と北朝鮮を賛美する。では、おまえが、10 人の代わりに人質になれ！・・・などなど、二度と政権を奪取することはできないだろうし、もし政権担当になったら、のちに述べる「悪夢の民主党政権」になる。辻元は、しゃあしゃあと民主党に入党して、モリカケ問題の際、問題にされなかったのをいいことに、森友の極端に値引きした土地の隣の野田公園を豊中市に払い下げするのを手助けしたのではないか。あと、つつつけばいくらでもでてくるのではないか。さらには、社会党は、「拉致はない」とホームページに書き、どこの国のプロパガンダをしているのか。拉致被害者のごく一部が帰国したあとでも、掲載していた。世の中がみえていないし、国民を愚弄している。1995 年、次回の党大会は翌年の 1 月 17 日、と決定する。阪神大震災の発生した日である。・・・いかに、何も考えていないことがわかる。いまや支持率は 1%未満であり、ふつうなら、端数は切り捨てである。

村山は、「どの時期かについて断定的に言うのは適当ではない」などといっちょ

前に語るが、「どの時期と限らなくても、歴史を学べば、わかるだろう？ おまえはずっとアカンねん。」朝鮮半島を植民地化したと言うが、あれは朝鮮の大君に頼まれて日韓「併合」をしたもので、決して「植民地化」したものではない。今、文明国づらしているが、誰がそうしたのか、わかっていない。歴史を捏造するのは、まちがっている。最近気が付いて、雑誌に書いているまともな人もでてきた。

ではなぜこんな程度の人間が総理になったかといえば、宮沢喜一の無能、無策、歴史の皮肉。そのあとは、小沢一郎が細川護熙をダミーにして権力をにぎろうとしたのだが、言ってはいけないことをポロっといってしまったから小沢の傀儡であることが露見し、かさねてカネの問題でポロが次々とでてきた。そして内閣崩壊である。殿様というのは御簾の内において、表に出てくる存在ではない。東京都知事選にも出馬したが、表情に乏しく、いわゆる老人呆けしたような表情だった。

2. ところが、村山トシ吉が第2位にランクされているので、誰が1位なのか？ 不思議だったが、**河野洋平**だったので納得。丙丁つけがたい。

事情も調べずに、朝日新聞の誤報に惑わされ、慰安婦を強制して集めたことになっている。拉致被害者連が、猛反対するなかで、上等のコシヒカリを「人道支援」とか理由をつけて丁重に送る。これは、**野中広務**も同調していて、「北朝鮮が暴発したらどうするんだ・・・」と大あわてだった。北から見れば、「脅しが効いた」と判断するだろう。いくら上等のコシヒカリを送っても、感謝するどころか、日本にはそうしなければならない理由があるんだろうと考えるものである。人道的支援というなら、余剰米を送ればいい。古米で十分だ。

(ずっと後年の話だが、安倍総理に対し、朝日新聞の星ナニガシが、「従軍慰安婦問題はどうなるのですか？」と質問した。安倍はすかさず「星さん、あれはあなたの朝日新聞がペテン師の吉田某のでっち上げをもとに騒いだけのことです。」星は何も言えずに沈黙した。しばらくして、安倍さんはトランプにあってとき、朝日新聞に勝った、と述べた。トランプは、「オレは CNN だ」と語ったという。)いずれにせよフェイクニュース(嘘の情報)だったと言いたかったらしい。

さらに台風か何かで台湾に不時着したとき、1歩も機外に出ず、それを中国共産党の外務相にわざわざ報告するような惨めな人間である。そこまでして中国共産党に気に入られたいのか・・・史実として特定できないことをあたかも実在したかのように話を持って行って、世界的にも認められていない未確定なことがらについて、自分の考えをおしつけるのは、どう鼻屑目にみても、何の意味もな

い。存在そのものが国賊だ。・・・歴史を知らなさすぎる。

台湾の李登輝総統の訪日に猛反対して、河野洋平ではなく「江の傭兵」（江は無  
論江沢民のこと）と呼ばれている。台湾統治についても、偏向の NHK が植民  
地だと強硬に主張する勢力に迎合しようとして番組を作ったが、当の出演した台  
湾人に総スカンをくらった。歴史をねじまげてはいけないという見本のようなも  
の。よくまあ、聴取料とかいって、国民を騙し、カネを奪っていくなあ。TV が  
ない家からも取っていたという。

3 位には、国民にはなぜか人気のある小泉純一郎である。この人の下で郵政民  
営化を促進したのが竹中平蔵である。こいつは、単なる使い走り。彼らの経済改  
革は、見事に失敗してバブルの後遺症から抜け出せなかった。郵政民営化によっ  
て国富、国益、社会を米国に「献上」した。小泉は、自民党をぶっ壊すなどと威  
勢のいいことを語ったが、20 年来の夢であろうが、なんだろうが、結局は郵政事  
業のうち、郵便事情は当然異なるが、貯金と簡易保険の金融部門を米国保険業  
からの圧力で、放棄したようなものである。これについては、紺谷典子さんがま  
とめている。（平成経済 20 年史）後述する。

なぜ人気があったかといえ、公務員を減らすことに国民が反応したからであ  
る。不況になると公務員を責めたり、羨んだりするのが「国民」である。そのく  
せ、景気のいい時には、「公務員の給料をあげてやってくれ」などということは、  
聞いたことがない。それまでのバブル経済のときでさえそうである。

小泉にとっては、たとえ 20 年来の夢であったかもしれない郵政民営化であつ  
たが、要は米国に対する遠慮（実は、米国保険業界の圧力）であり、「対米追随派」  
の大蔵族でしかない。大蔵省にしても外務省にしても、アメリカさんの言いなり  
である。また、大蔵省は、経済の源であって他の省庁より格が上なのである。・・・  
この権力構造は、バブル崩壊の時に露骨に現れた。・・・だから後述の橋本首相  
の談話に激怒したなどと言われる。たかが官僚、たかが木っ端役人ではないか。  
国を背負っているのは、おまえたちではない。誰も頼んでへんで。

郵政事業のうち、郵便事業については、当然ながら米側も興味を示さず、結局  
郵貯と簡保の金融部門のカネが目的である。

竹中平蔵は、たんなる小泉の手足に過ぎず、理論など持ち合わせていない。だ  
から、国富、国益、社会を「献米」しただけの男。自称「経済の大家」であるが、

実質バブル経済から改善がみられなかった。いまでも、理屈だけは、人並み以上に語るが、実際には、なにもできなかった。たんなる無能な評論家である。

小泉は、「改革は痛みを伴う」としか言わず、具体的な話をしない、キャッチフレーズだけの男だった。国民のための改革が、国民を痛めつけるのは本末転倒ではないか。バブル崩壊後 10 年以上、なんら有効な手段を講じることができず、20 年後のアベノミクスまで待たねばならなかった。国籍は日本だろうが、その忠誠の対象は米国であり、カネである。米国に金をひねり出し、そのおこぼれをもらっていたにすぎない。

彼らの改革とは、嘘とまやかし、大蔵省、日銀べったりであり、国益を考えていないことをずっと指摘している。(後述)

#### 4. 小沢一郎。

自分が出馬すると、見た目嫌われるから細川護熙を前に出した。ところが、佐川急便疑惑、NTT 株式取引疑惑、オレンジ共済疑惑などなど、まさに「疑惑の宝庫」で、しかも米国や世界からの圧力に屈して、コメの輸入にふみきってしまった。これは、発展途上国からの輸入であり、その国に飢餓を起こす危険性もあったのである。これを陰で糸を引いていたのが小沢一郎。いまやレームダック状態で、もともとカネの切れ目が縁の切れ目だったのが、カネが動かなくなったら、みな冷たいものです。それまでは、田中角栄や金丸信にくっついてしたが、民主党政権のときに黒幕のような存在ただただで、政党を作っては壊し、政党助成金の行方はいまだわからず。東北大震災にあたっては、ミネラルウォーターの風呂にはいっていたという、なぜなら放射能が怖いから。だから奥さんにも愛想づかしされ、「水沢に帰りたまえ！」と言われる始末。

李登輝が、「この程度の男が日本のキングメーカーであり、政界のドンと呼ばれているのか。信じられない思いだ」と唾然としたのが金丸信。その下で暗躍していたのが小沢一郎。またぞろ顔をだしそうであるが、玉木など獣医学部設立で恥をかいた人物。いずれ、小沢がつぶしてしまうだろう。

この人物は、国連一辺倒。しかし、国連の序文にあるように、国連とは「連合国」であり、日本のような有色人種が二度と白人に立ち向かうことがないようにするための組織。こんなのにつきあわないといけないというのは、カネだけ出させて、便利屋扱いするためのもの。こんな組織はいらない。国連を信用していること自体、何もわかっていない。

## 5. 中曽根康弘。・・・大勲位を受賞したが、なんで？

国鉄をはじめとする三公社の民営化、三次に渡る内閣首班。憲法改正を訴え、安全保障や防衛問題にも積極的に発言してきた些細な功績はある。日米関係も良好に進んだ。・・・ここで大事なことは、どの内閣においても、一般的に多少の功罪はあって、ただその罪が功をはるかにうまわっているだけのことである。たとえば、小泉の場合、ハンセン病隔離政策を廃止し、国家賠償に応じたことは大功績である。涙を浮かべて謝罪した点はいい。あとがダメだっただけで・・・村山トン吉でさえ、功はあるのである。この内閣の場合、経済改革をする余裕がなかった所為もあるが、結局はなにもしなかった。そのため経済としては、バブル崩壊後、もっとも落ち着いた状態だった。無能がいいときもある、という見本。・・・ところが、その後、調べてみると、「功」のあった総理がなかなかみつからないのである。人間として最低の部類に属する連中ばかりなのである。これでは、民主党政権になったのもやむを得ない。先を見る目がないわれわれのこと、その時の悲劇がまさか待っているとは思わないのだから。この本が出版されてから民主党政権になったのであるが、その後に書かれたものなら、また大きく異なった評価になったかもしれない。ただし、安倍首相に関しては、必要な法案をいくつか通貨させているので、病気がなかったら、もっと仕事ができただろう、と思われる。

中曽根に話をもどすと、恒例の敗戦記念日の靖國神社公式参拝を野党などが反対していたのを、柳に風と受け流していたのに、中国共産党からのクレームをうけて、敵に靖國参拝中止というカードを渡してしまったことである。靖國参拝は国内の問題だから、「内政干渉だ！」とつっぱればいいのに、唯々諾々と参拝中止した。以後の総理は、参拝しなければならないのに、できなくなってしまったことである。・・・何が、元海軍軍人だ、嗤わせるな。

A級戦犯合祀に反対というが、戦争中に敵を攻撃するのは当然のことであって、マッカーサーのように敵前逃亡するような日本軍人はいなかった。日本が勝つべく努力した「英雄」ではないか。

中曽根は、「過去においてアジアの国々を中心とする多数の人々に損害を与えたことを深く自覚し、『反省』するという謝罪史観を述べたうえで、わざわざ「サンフランシスコ平和条約第 11 条によって極東国際裁判所の裁判を受諾しております」とまで言及。・・・何をいっているんだ。こいつも歴史がわかってへんわ。

A級戦犯は、重光葵、賀屋興宣もそうで、いずれも服役後に大臣になっている。「戦争犯罪」とは、占領軍が勝手に決めたもので、戦犯の処遇と講和条約とはなんの関係もない。重光葵は、講和条約にサインしている。

昭和 30 年鳩山一郎が靖國神社春季例大祭での真榊奉納もとりやめ、それを安倍晋三が復活した。22 年も経っている。

昭和 61 年、A級戦犯合祀は、他の戦没者と同様、厚生省から送付されてきた「祭神名票」によってなされたことがわかった。このため、A級戦犯分祀という、中曽根や加藤紘一、石原慎太郎、古賀誠、小沢一郎らの「分祀論」という胡散臭い動きが消滅した。・・・それにしてもろくなのがいないな。

そもそも東京裁判は、「報復」のための儀式に過ぎず、人道に対する・平和に対する罪、戦争犯罪などは、原爆を落とし、軍人以外の一般人を無差別に攻撃した米国にあるのではないか！ 戦争をふっかけてきたのはルーズベルトであり、こいつもアメリカ人だ。ボクというより父親の知人である方が、「あのグラマンに追いかけられたときは、ホンマにもう死んだほうがましやと思った」としみじみと語っておられた。・・・このように、1頭ずつ、狩りをするように攻撃してきたのである。

侵略ばかりを取り上げるが、日本は南方に石油などの資源を入手するために侵攻したもので、侵略ではなく自衛戦争である。(これは、マッカーサーもみとめている真実である。もし侵略するなら、米国やイギリス、フランス、オランダのように占領地の住民を虐待しているはずである。なぜ、戦後、雨後の筍のように次々とインド以东の国々が独立したのか。・・・これが、大東亜戦争の本来の目的；大東亜共栄圏の発想に近い。人種差別も無関係どころか、大きな原因である。

いずれにせよ、確固たる信念をもって英霊たちに敬意を払い参拝したのなら、他人や他国がどう言おうと「内政干渉だ」とつっぱねればいいものを。

翻って、中国共産党によるチベットやウイグル自治区での虐待、虐殺をなぜ問題にしないのか？ 彼らは、「内政干渉だ」とつっぱねるではないか。これこそ人道に対する罪ではないのか？

日本は戦争中の話をきりだすと、なんでも言うことをきく、と世界中に思われてしまう。みっともない話である。軍が国家の自衛のために（マッカーサーでさえ、これを認めている。いずれ日米戦争の真の原因というのを確かめたいつもりである。）戦ってくれたことに感謝するどころか、いっしょになって戦犯というのは、おかしい。

## 6. 野中広務

総理にはならなかったが、官房長官や閣僚として辣腕を奮い、影の総理と呼ばれた。まあ、「こわもて」です。国会審議で、同じようなことをしていた誰かが野中を攻撃した時、「それは、あなたに言われることはない！」と言ったため、満場大笑いになったことがある。この手の人物に多い「他人の言うことを聞かない」典型的な人。

河野洋平同様、上等のコシヒカリを北朝鮮に送った。・・・念のため、新聞はいままでこそ「北朝鮮」と書いているが、当時から書いていたのはサンケイ新聞だけで、朝日など「朝鮮民主主義人民共和国」と、実情とはるかにかけ離れた名称を恥ずかしげもなく書いていた。いかに共産党系の国家が好きなのか、がよくわかる。社会党も同じ。

野中話。小沢一郎などとは、当然そりが合わないが、小沢に関しても、「私がいなくなれば、然るべき筋からすべてオープンになるようにしてある」と恫喝する。小沢も、つつかれたら困るようなことをいくつもしてきたから、ビビって沈黙を保たざるを得ない。

中国共産党や朝鮮の言うことをすべて鵜呑みにする、歴史を知らない政治屋である。村山談話にも関係していて、国益の損失を省みることもしない。

## 7. 福田 康夫

この男の父親が福田赳夫。飛行機のハイジャックに際し、「人命は地球よりも重い」などと悪知恵をつけるのがいるから、とくくと、テロリストたちを解放し、なおかつ盗人に追い銭。・・・これがのちのバングラディッシュのダッカ空港での無差別殺人に至る。いくら外交知らずといっても限度がある。このときの被害者の命は、地球より軽い、ということになる。バカをおだてると、世界中の批判を浴びることになり、日本そのものが信用されなくなる。

息子の福田康夫が言う。私は（総理に）なりたいたいと思ったこともないし、資格もないですよ。・・・それなら、なぜ立候補した！！

国旗に礼を払わないし、日本の国益増進を図るのが首相の役目。そのために外務省が存在する。

日本人＝地球人ではない。日本人とは、「さかのぼれる限りの先祖から日本列島に住み、日本語を話している人」である。地球愛も地球人も無意味で軽薄な偽善。・・・洞爺湖サミットで語ったことである。・・・こいつは正気なのか？



「お友達の嫌がることをあなたはしますか。しないでしょ。相手の嫌がることを、あえてする必要はない。」「私の外交姿勢は、どの国ともできるだけ滑らかに、そして平和な関係を築くことだ。」・・・・・・まるで小学校のスローガンだ。これなら、民主党政権といい勝負だな。

・・・・・・外交とは、国と国とが、その自国の利益をいかに手に入れるか、というものである。・・・・・・これは、国賊だけではなく、亡国の宰相だ。よくまあ1年でやめてくれたものだ。現在は、中国共産党べったりで、まあ、向こうに住めば大事にしてくれるんじゃないですか。

一国は一人を以って興り、一人を以って亡ぶ。

## 8. 森喜朗

この人の業績とって思い出すものが全くと言っていいほどなにもないのが特徴である。また、総理になったはいいが、その過程で「公明正大」に選挙で選ばれたものではなく、古手のいわゆる実力者と呼ばれる連中が、密室で決定したような印象がある。

国を売る、というのは、領土や国民を他国に売り渡したり、国家の尊厳を捨てて大陸の独裁者に土下座することだけではない。

本来美しかった日本の「国柄」を愚劣で下品に貶めた政治屋こそが、真の売国奴として罪万死に値する。

この国の政治のシステムそのものに巣食って、それを食べ物にする売国奴はよりタチが悪い。なぜなら、そのシステム自体が機能することによってさらに多くの売国奴を創り出し、売国の拡大再生産がおこなわれるからだ。

これらの輩は、一定の割合で出現してくるが、人体の免疫のように「義」や「志」をもつ人々や政治家が一定量いるからなんとか、持っているのである。

日本の場合は、保守である自民党であった。ところが、昭和の終わりから平成の初めごろにその免疫能が低下してきて、義や志よりも、利権や金権が幅を利かせ、談合が上手な政治屋が「自民党」に巣食い出し、優れた思想や哲学をかざしての議論がなくなり、阿吽の呼吸や恫喝によって政策が決定されるようになる。その元凶が森喜朗である。あとは、カネや権力の亡者どもの跳梁跋扈である。

この稿を書いたのは、先日亡くなった勝谷誠彦氏であるが、「サメ並みの頭脳」

の証明をいくつか書いているが、「バカみたいな人物」が総理になったことはあるが、「正真正銘のバカ」が総理になったのは、この人を嚆矢とする。何よりも国民に対して害をなしたのは、「バカに対する免疫力」を生んでしまったことである。結局1年間で総理の座を明け渡した。

・・・その結果、民主党政権下、「馬鹿な首相」や政治屋が続々と現れたことがその証明である。

事実かどうか、IT革命（アイティ）を「イット革命」と読んだり、クリントン大統領に“Who are you?”・・・本来は“How are you?”なのに、あなたはだれか？ときいたものだから、クリントンが「私はヒラリーの夫です」というと、“Me, too”といったという。冗談だろうと思うが。

## 9. 加藤紘一

こいつはクズだ。故佐々淳行さんが、極端に嫌っていて、馬鹿にしている。戦後レジームの申し子というか、頭が悪いため、戦後の混乱期から脱却できない。中曽根内閣で防衛庁長官をしたが、単に派閥順送りでなっただけで、使命感も責任感もない。佐々淳行氏を徹底的に無視し、中国共産党が世界中から嫌われているときに、天皇訪中を画策し、天皇の政治利用で、なんとかもちこたえた政治屋である。このとき、河野談話の前に加藤談話をおこない（内容はほぼ同じ）、首相の宮澤喜一が平謝りを繰り返した。宮沢は、言わずと知れた「学はあってもバカはバカ」の典型だから、謝らなくてもいい時に、謝罪をくりかえした痴れ者である。日本の恥そのもの。米国に呼びつけられると、飛んで参上するから、米国側から馬鹿にされていた。

宮沢は、バブルが崩壊してから、3年経過して、初めて何事か為そうとしたらしいが、すでに手遅れであった。

加藤は、北朝鮮を利する発言を繰り返し、有本恵子さんの父親が、「あの男は、これまで何をやってきたのか。皆さん書いてくれ。議員を辞職するべきだ」と激怒した。

・・・この程度の男が幹事長をしていたことに、日本は（自民党は）恥じるべきだ。

挙句、なにをとち狂ったか、加藤の乱なるものをひきおこして総理になろうと

し、さらには、カネの問題で、結局は自民党からも国会からも排除されることになった。無能な人間が野心を抱くところなるということが、みんなに知れ渡った。

以上の10人は、何かしようとしたか企図したかはともかく、経済立て直しのための「改革」を語っていたが、結果はご承知のように、すべて画餅だった。これらのことを含め、長谷川三千子、勝谷誠彦、八木秀次、関岡英之、潮匡人らが、それぞれの人物を書いている。

これはこれで、2009年での評価であり、大きな異存はない。ただ、あと10年、いやせめて5年待てば、もっとクズのような政治屋が徘徊していることになった。

しかたがないから、僕自身の判断で、その後の国を貶めた政治屋について書いてみる。

その前に、**紺谷典子**さんの説を紹介しよう。長らく生きてきたが、経済の話をするとは思ってもよらなかった。・・・なにせドンプリ勘定の植田で通っていたから。

小泉純一郎と竹中平蔵は、ひとまとめにして、最も大きな罪は、かすかながら回復しようとしていた小渕恵三さんらの業績（株価は2万円を超す）をガタガタにし、長銀の破綻に数兆円もの公的資金（つまり税金）を投入しながら、外資系の秃鷹ファンドにわずか10億円程度で売却したことである。これが、年間600億円もの収益を上げて、みな自国に持ち帰る。この政権は、年金問題にしても医療費の問題にしても国民に対して嘘八百を並べ、大蔵族の小泉の功績になってしまっている。新聞には載らず、ごく小さな、ふつうは気が付かないような大きさの記事しかでていない。郵政民営化で、過疎地などの配達などでどれほどの人が被害を蒙ったか。郵便貯金などを米国に差し出しているようなものじゃないか。

かねてより、ボクの持論は「新聞記者は頭が悪い」であるが、TVの記者も同じ。肝腎の部分を素通りして、理解しながら素通りしたのか、本当に理解していなかったのか？

新聞記者の頭の悪さを自分で書いていつだか覚えていないのだが、橋本龍太郎の米国での「不用意なひとこと」が、バブルをさらに崩壊させ、米国は不快に思い、その報復が怖いと書いた記者（ほとんどがそうだが）がいる。バカそのもの。アメリカの言いなりで、日米交渉ができるわけがない。

新聞記者（当然マスコミでもいい）の頭の悪さの例である。平成 9 年、米国を訪れた橋本総理は、コロンビア大学で講演した。フロアから質問があって、「過去 20 年、円に対するドルの価値は半分近くまで下がったが、日本はそれでも米国債を持ち続けるのか？」

橋本さんは、「ここに FRB や NY 連銀の方はいないでしょうね。と笑わせてから、こう答えた。「実を言えば、米国債を大量に売りたい誘惑にかられたことが、何度かあった。カンター氏とやりあったときや、ドルが大きく下落しているのに、米国が放置していたときだ。」

「外貨準備は、米国債でなく金で持つこともできた。しかし、それでは、米国経済に大きな影響が出ないだろうか。外貨準備として米国債を持つ多くの国々が、ドルが下落しても持ち続けており、それは米国経済の支えの一部になっている。その点はあまりわかっていただけないようだ。われわれが米国債を売りたい誘惑に負けないように、これからもドルの安定に協力していただきたい。」

この発言で米国株価は 192 ドルの暴落となった。史上 2 番目、ブラックマンデー以来の最大の値下げであった。……世界中で大きなニュースとしてとりあげられた。

米国は、収入以上に支出をする国である。他の国から借金して穴埋めしている。ドルは基軸通貨だから、他の国は、外貨準備をドルで持っている。現金で持つても、金利がつかないから、米国債を買う。ドルが米国に支払われ、米国に資金が戻ってくる。

日本は、当時、世界一の外貨準備高を誇っていた。その大半が米国債だ。その日本が米国債を大量に売れば、世界経済へのインパクトは大きい。つまり橋本首相は、日本にもカードがあるとほのめかし、無理難題はほどほどにと、やんわり押し戻したというわけだ。

米国のマスコミの多くが、この発言を「威嚇」と受け止めた。「どうせ売れやしない」「売れば円高が進むから、困るのは日本の方だ」と反撃したのも、まあ当然というものだろう。

（紺谷氏が）解せないのは、日本のマスコミが「失言」と決めつけて、「不用意」「軽率」「うっかり」と批判的だったことだ。「米国の株価だけでなく、日米関係を危険にさらした」と、まるで米国の新聞のようなのだ。橋本首相は、確固たる信念をもって語ったのである。

日ごろ、日本のマスコミは、日本の政治家の存在感のなさ、国際的発言力のな

さを慨嘆していたはずである。それなのに、いざ、発言力を行使すると、慌てふためいて外国に気を遣うのはなぜなのか。(・・・このあたりが、ボクの言う頭の悪さの一部なのだが)

世界競争の時代、各国は自国の利益をまもるのに必死である。日本の首相が自国の影響力を世界に思い出させたのが、そんなに悪いことだろうか。国連の分担金も ODA も世界一、それなのにいつも影が薄く、無視されがちな日本を慨嘆していたのは、誰だったのか。

この程度の駆け引きは、どこの国だって行っている。もっと露骨な圧力や介入も珍しくない。どこよりも米国自身がそうである。橋本発言を評価する声が EU にあったのは、彼らも米国の横暴を感じていたからだ。

誰よりも慌てたのは大蔵省だった。橋本首相の名前で、「誤解を招いたのは、遺憾、真意は違う」と即座に訂正コメントを発表、蔵相も次官も「これまで一度も売ろうと思ったことはないし、今もそうだ。」と同じ表現で釈明に努めた。実質的な首相発言の否定である。(余計なことを！)

しかし、首相の発言を、蔵相や官僚ごときが即座に否定するのは、かえって国際信用を失う行為ではないのか。米国を恐れ、迎合する大蔵省の姿勢がくっきり見えた瞬間だった。大蔵省次官が激怒したとの報道さえあった。・・・学はあってもバカはバカ、の見本。まだ戦争末期の恐怖感から抜けだせないのか！

「発言を誘った会場からの質問者はヘッジファンドの人間だ。売りポジションを取ったうえで、暴落を仕掛けてきた彼らの戦略に、橋本首相は、まんまと嵌められた」というのが大蔵省幹部の一致した見解だ、と日経金融新聞は書いた。だが、そんな裏話にどれほど意味があるのだろうか。

たとえそうでも、橋本発言で米国の株価が暴落した事実、それによって、日本にもカードがある、とデモンストレーションした効果はあったのだ。しかも、史上2番目の下げ幅とはいえ(だから世界は注目したのだが)、下げ率で見れば、たいしたことはなく、すぐに回復し、実害は何もなかった。

米国高官の発言で、日本の株価が乱高下することはあっても、その逆はない、というのがそれまでの常識だ。その影響力のなさこそ、むしろ問題だろう。橋本発言は、市場を一瞬慌てさせたが、ダメージは全く与えていない。少なくとも結果的には、理想的なデモンストレーションだったのだ。

「日米関係の悪化」が心配というが、スーパー301 条を振りかざし、実態を無

視した無理難題を押し付けたり、急速な円高を仕掛けてきたのは、米国だ。「カンターさんとやりあったとき、ドルの下落に無関心だったとき」というのは、橋本首相にしては、ささやかな皮肉である。……官僚ごときが、いつでもえらそうにして、おまえらが米国のポチではないか、自覚していないようだが。

橋本首相は一言も「売る」とは言っていない。「誘惑にかられた」と言っただけだ。しかも、発言内容をきちんと読めば、「売らなかったし、これからも協調する」とはっきり述べている。

橋本発言から数週間後のワシントンポストは、「橋本首相はここ 10 年来に日本で最も強力な首相になりつつある」と論評した（このときも、日本のマスコミは褒めすぎだ、と嘲笑した。）……（バカにいわれたくないよ！）

自動車交渉の平成 7 年当時から、ワシントンでは、橋本首相は、タフ・ネゴシエーターの呼び声が高かった。少なくとも**海外は、国益をまもろうとした橋本首相の姿勢を評価した**のである。

こうなると、国を貶めているのはマスコミの連中で、しかも理解力がないことを露呈したようなものである。

……紺谷典子氏の著書では、後述する小泉などより、はるかに橋本総理の評価が高く、ほとんど唯一とっていいほど、褒めちぎっている。これは、日本以外の外国からの評価でもある。

但し、橋本改革での経済での失敗は、容赦なく責めている。

日本経済の長い低迷は、日銀と大蔵省の誤った政策の結果であるが、多くの経済専門家と称する「まがい物」（大阪ではパッチモンと言ったりバッタモンと呼びます。）が、専門家としてなにもしなかった。誤った政策を指摘するどころか、必要な政策の邪魔までしたのである。

住宅ローンの問題も（住専問題）、実質大蔵省と銀行がつるんで、庶民のささやかな夢をぶちこわしたのである。経済学者は何も言わない。全部農協の所為にしてしまったようなもの。……まあ。こいつらは、影に日向に、悪たくみばかりしている悪代官の手下みたいなものです。

ここで橋本改革がでてくる。橋本さんは、のちにこの失敗をとりもどそうとして総裁選にでたが、夢かなわなかった。マスコミの見当はずれの評価もあるが、

「改革」といえば国民は「きっとよくなる」と思ってしまいが、そうではないし、失敗した時のリスクが大きすぎる。

橋本改革は、経済が必要とする政策をおこなわず、悪化させるような政策をしてしまった。細川内閣に次いで失敗したのが、「行政改革」「財政構造改革」「金融システム改革」「経済構造改革」「社会保障改革」「教育改革」で「火だるまになってもやる」と言ったが、実際に「火だるま」になってしまった。その原因は情報源を間違えたから。大蔵省は、「財政危機」を主張するが、「緊縮財政」が財政悪化の原因である。そしてすべての改革は、財政削減しか考えられないから、おかしくなってしまったのである。だから日本経済は、かつてない危機に陥ってしまう。行政改革に有識者が加わるという規定の路線になったら、まずうまくいかない。有識者には、責任をとれない、とらないからである。

橋本さんは、政治主導による改革を唱えるなら、国会で議論するか、少なくとも国会議員で委員会を立ち上げて議論するべきだった。このあと大蔵省のノーパンしゃぶしゃぶ接待がばれる。すると、大蔵省側で、「庶民の生活がわからなくなる」と言ったバカがいて、そんなしょうもない所に、まともな庶民が行くはずがないし、庶民の生活がわかるはずがない。文科省の前川じゃあるまいし。

郵政民営化は結構だが、国鉄や電電公社の民営化にも功罪がある。郵政民営化の結果、道路公団の財務担当が逮捕されたり、特殊法人の無駄遣いも捕えなければならぬ。．．．．．専制政治の末期には、貪官汚吏が跋扈する。日本も、頭の黒いネズミが跳梁跋扈する時代になってしまった。

小泉は、「財政改革のために郵政民営化」と言うが、諸悪の根源・大蔵省という犯人を隠蔽してしまったようなものである。そしてマスコミを初め、誰もその罪を指摘しなかった。ニュージーランドは郵政民営化に失敗したのだが、その失敗したポストを前に口を極めて褒める。間抜けなことだ。

平成9年、橋本政権の財政構造改革の議論が本格化すると、大蔵省は、日本の財政赤字は、主要国の中で最悪と嘘をつく。

しかも「債務残高」を「財政赤字」と表現していた。日本は、世界でも有数の巨額の資産を持っている。つまり、債務残高が多いということである。

「痛みを伴っても改革」という小泉改革で使われたキャッチフレーズは、実は、橋本改革でも使われた。国民を痛めてまでおこなう改革とは、いったい誰のための改革なのか、疑問を禁じ得ない。

平成 7、8 年は、ゆるやかではあっても経済は回復しつつあったのに、緊縮財政と消費税増税が、これをひっくり返し、デフレ経済に陥った。米国はじめ、IMF,OECD など多くの国際機関からも、「まだ、その時期ではない」という警告が相次いだ。しかし、すでに走り始めているために、戦後、先進国が経験したことのない異常なデフレ経済が始まった。平成 10 年以降はデフレで、自殺者が 3 万人を超え、失業率も 4%を超える。株価と地価も暴落する。

金融ビッグバンとは、要するに外資に寛容、国内には苛酷であり、普通の国とは逆になる。マスコミも同罪である。たとえば、長銀が破綻したとき、新生銀行で再出発する。この銀行が頑張っただけで利益が 600 億円である。で、売値は 10 億円。儲けは、すべて海外にでてしまう。

**危機の時と平時の対応は、異なるのが当然である。話をかえてみるとよくわかる。**

大東亜戦争のとき、20 歳になるかならないか、の時の成績をもとにした年功序列のまま海軍も陸軍も戦争に突入してしまった。だから、栗田健男が臆病で戦艦大和をレイテ湾に突入させるべく、小沢艦隊がおとりになっているのに、せっかくの勇氣ある行動がすべてパーになってしまったり、(栗田が U ターンして逃げて帰ってしまった。) 真珠湾攻撃でも、第二次までしか攻撃せず、山口多聞少将ら戦略眼のある連中は第三次攻撃を待っているのに、司令官南雲忠一、源田実などは、すたこらサッサと逃げている。そのため、たとえば、ハワイにあるガソリン貯蔵所などがまるまる残ってしまい、大戦果のように報道しているが、実際はほんのわずかな「かすり傷」で終わってしまった。・・・この流れが、ミッドウェイ海戦で、空母を軒並み攻撃されて、・・・このときも山口少将は「そのままの陸に対する砲弾で攻撃するべきだ」と主張するのを源田・南雲は、空母の甲板で魚雷に交換してから攻撃しようともたもたしているうちに、戦闘機グラマン F4F に攻撃され、あれよと言う間に誘爆を誘い、むざむざと 4 隻中 3 隻を沈められてしまった。これが日米逆転の結果をもたらしたのだが、海軍は、これを隠蔽してしまい、のちの陸軍の作戦にも影響し、東條英機が終戦間近まで知らなかったという有名な話がある。

一方の米国は、平時 No29 のニミッツ少将を 28 人抜きで総司令官に抜擢した。この差は大きすぎる。無能な司令官ほど邪魔なものはない。

考えてもみよ。バブルの時代に銀行がやったことを。いらん！と言っているの



に貸し付けて、バブルがはじけると、家屋敷から土地まで奪い去っていく。それを恥じることもしない。・・・ややこしい銀行など、潰してしまえばいいのである。それをいくつかの銀行を合併させ、名前を新たにし、どこが何銀行だったかわからなくしてしまった。薬業界における「みどり隠し」（HIV感染を放置した、とくに血友病患者に対して）みたいなもので、吉富製薬が合併したまではわかっているが、その後は不明瞭になってしまっている。そこに外資系の会社が参入したもものだから、日本独特の、いい慣習である、生涯雇用をなくしてしまった。

本来、政府への信頼があれば、経済もおちついてくるはずである。

橋本竜太郎首相時に落ち込んだ株価が、小渕恵三首相の地道な政策で2万円台になった。ところが、小泉・竹中の頓珍漢な指針のために、再び落ち込む。まるで、外資に貢物をするために準備されたかのようであった。外資の攻略は、小泉竹中プランによって、疾風怒涛のように、再び金融市場を襲う。

医療費などの赤字もそうである。・・・紺谷典子さんの指摘は、実に厳しいものであるが、結果を見れば納得せざるを得ない。

このあとは、安倍晋三総理が、経済立て直しやスパイ防止法や日米安保の改善、自衛隊による集団的自衛権の問題など、いくつもの政策を実行した。ところが、宿痾のために1年間で退陣を余儀なくされた。その後、福田康夫。上述のように1年でやめたと、という感じ。麻生さんもでたが、1年で退陣。・・・1年ごとに首相が代わる国を世界が信用するだろうか。

そして、「悪夢の民主党政権」と安倍晋三さんが喝破したように、無能、無策、前言撤回、国民を愚弄し、中国共産党に対して何も言えない、北朝鮮賛美、日米安保が崩壊寸前まで・・・といった国益がどうの、という前に日本の存在そのものが危殆に瀕した**民主党政権**になる。故佐々淳行氏は、上下2冊の著作を著したが、2冊目の前に「得てして、こういう危機管理ができない政権の時に、天変地異が発生するものだ」と語ってから2~3日後に東日本大震災が発生した。まるっきりの予言者のようなものだが、阪神大震災の時の村山トシ吉を考えれば、予言でもなんでもないかもしれない。東日本大震災の当時の首相は菅直人だったが、国民の難儀について会議ばかり20以上立ち上げ、しかもそれぞれが何の役にもたたなかった。福島原発に口をはさんで、世界的に称賛された「福島フイフティー」を民主党とつるんでいた朝日新聞が故意に誤報を流し、世界中に恥を曝

した。菅が原発に対してしたことは、危機に際して、邪魔ばかりしていたことである。もともと、外国人からの献金問題を討議していた時に大地震が発生したのだから、菅は命拾いしたのだが、あと数分、大地震がおそかったら、あそこまで被害が大きくならなかつた可能性が大きい。

順不同で、国を貶めた政治屋の名をあげていけば、

**鳩山由紀夫、菅直人、仙谷由人、蓮舫、辻元アンパンマン、福嶋某、枝野某、野田佳彦。ついでに土井たか子。**これで9人になる。あとは、肝腎の憲法改正などの審議に応じないで、単なる詐欺師の与太話に乗って、あるいは必要な学校建設について（モリカケ問題）まともな国会活動をして来なかつた野党議員全員がそうである。いずれにしても、親中国共産党、北朝鮮であり、反日である。

とりわけ、国益を損なってでも中国共産党や北朝鮮に対して弱腰だったのが、「荒野の三悪人」(荒野には、日本の国土や人心が荒れ果ててしまった意味も含む)が、初めの3人である。4人目以下も悪人といってもいいが、3人がもっともタチが悪い。蓮舫も、事業仕分けで、不評を買い、挙句は自衛隊の軍服を中国でつくらせようとした。あの制服には、あらゆる秘密や工夫がなされており、わざわざ他国に教えるのは、売国奴である。二重国籍など、国会議員の資質は全くない。「尖閣はアメリカにまかせて、こちらを先にしよう」などと寝ぼけたことを言う。日本の自衛隊が先頭に立たなければ、アメリカが、日本のために、若いアメリカ兵の血を流すはずがない。・・・そんな単純なことさえ理解できない。

辻元や福島は、「わずか10人のために北朝鮮との国交回復をしないのか」という。拉致被害者の家族の前でそれを言ってみろ。袋叩きにあうぞ。なぜこの連中の意見をマスコミが取り上げるのか、不思議でならない。バカだから。

前政権と意見が異なると言って、今までの国際間のやり取りを反故にするのは、国際関係からみても、もっとも信用を無くす行為である。それを、大見えを切つて進めるというのは、民主党政権が信用されないことの証明みたいなもの。その時点で、どこの国も相手にしなかつた。

野田が首相の時、原発再稼働をきめたとき、枝野は反対も何もいわなかつた、というより「経済的な国民の危機を回避する」と賛成していた。ところが、立憲民主党の党首になったら、反対の立場に立つ、という節操の無さである。確固たる信念があつての話ではない、のが一目瞭然である。同じく野田首相の時の水道、医療、社会福祉施設の売却に関しても反対する。何を考えているのか？ この方々の頭の中身を見てみたい。カラオケで歌っているシーンが浮かぶのみである。

支持率の低下も興味がないらしい。

**史上最低の鳩山・史上最悪の菅。**いま、安倍さんが困っているのは、ほとんどが民主党政権時に決定された事柄の尻拭いである。つまりは、負の遺産しか残さなかった。辺野古移設も、もとは民主党政権。消費税増税も民主党。

## 1. 鳩山由紀夫

まず、「マニフェスト選挙」と言われ、しかもまったく実行されなかったことである。「脱官僚・政治主導」「子ども手当配布」「高速道路無償化」「ガソリン値下げ(暫定税率凍結)」「温室効果ガス削減」「消費税増税廃止・埋蔵金の発掘」「八幡場ダム廃止(コンクリートから人へ)」「消えた年金の再調査と年金制度を一元化し、月額7万円の最低保証年金を実現」「ワークライフバランスと均等待遇を実現する」などが掲げられ、選挙中の発言では「普天間基地は少なくとも県外移設」を公表していた。

国民は、「誰がやっても政治は同じ」と考えたことになるが、民主党政権の体たらくと安倍さんの再登場で、そうではないことがわかっただろう。その上、民主党がしたことを、**あたかも安倍さんがしたように**、わざと誤解させようとする朝日新聞やわけのわからない団体が出没して混乱させようとしている。

もっともはっきりしたことを書けば、日米安保について、Trust me. など、詐欺師がおれを信じてくれ、というのと変わらない。

米国の新聞では、鳩山を「ルーピー」と呼ぶ。間抜けとかクルクルパーと訳す。

挙句は、日米安保に亀裂が入り、世界中から笑いものになったのは民主党政権であり、わが日本国民である。さすがに厚顔無恥な鳩山も、辞めざるを得ない状態になる。

沖縄に行って、初めて気づいたように、「抑止力」のために基地は必要だと強弁し、結局辺野古沖に移転させる。・・・今、いかにも安倍総理が決定したようにさわいでいるが、安倍総理は、前政権の負の遺産であっても、世界中に恥を曝すことを懸念して肅々として辺野古の埋め立てを行っている。

今、なにをしているのか？ 中国共産党にべったりで、土下座外交のようなことを「元首相」としてやっているらしい。いっそ、帰ってこなくてもいい人。

福島原発については、ニューヨークタイムズは、見出しに「警告にもかかわらず、日本の原発の寿命を延ばす」と書いている。すなわち、そもそもの福島第一

原発の稼働については、鳩山政権で決定されたものである。枝野某も、賛成していた。さらに米軍の嘉手納基地の移転については辺野古を決定したのも鳩山内閣である。ところが、いつの間にか、安倍総理がごり押しして決定したことになる。枝野など反対を表明し、同党の阿部知子議員など反対運動までしてデモ行進中に道路交通法違反で逮捕されている。・・・なぜ民主党政権時に反対運動を行わなかったのか？

## 2. 菅 直人

次に首相になったのが、「歴史に名を残したい」菅直人である。市川房江さんは、もともと違う女性に自分の地盤を遺したかったのであるが、無能なくせに奸智に長けたこの男は、騙したり裏で画策したりして乗っ取ってしまったのである。当然ながら、陰謀の結果である。市川房江さんは注意していたのだが、気が付いたら取られていた。卑怯とか信頼とか、そういう言葉とは無縁の世界に住む悪漢である。東日本大地震では、被災者はほったらかしにして、原発の事故の処理の邪魔をしに行く。・・・温暖化政策も関係なく、原発が稼働できないようにする。太陽光発電で、これの設置が邪魔になって、広島で大水害が発生し、多くの死者がでた。民主党の議員でさえ、菅でなければもっと復興が進んでいただろう、と言った。

菅の夢である「歴史に名を遺す」ことは実現した。しかも、史上最悪の首相として、高校の教科書に燦然と輝いて、ことこまかに記録されている。菅の対応の遅れで災害の被害が増大した、原発の処理の邪魔をしたなど。

すでに多くを割いて、以前に書いたので、このあたりで割愛。・・・語るべきこともなく、ただ存在していただけで後年の政治家の邪魔になるという奇妙な政治屋。

## 3. 仙谷由人

こいつは悪いことばかりしていた感覚があって、書くことさえ嫌になる。だから短い文章になっているが、決して、悪いことをあまりたくさんしていないというわけではない。

中国国籍の漁船というが、事実上は軍艦であろう、こいつが尖閣で海上保安庁の船に体当たりをした。犯人を捕らえたはいいが、国民には分かりにくいところ

で釈放してしまった。なにがおかしいかというと、中国漁船といいながら、精査することなく、初めから保釈・解放することを決めていた連中のひとりである。あんまりだから、一色正春氏が、Sengoku38 という匿名でその時の画像を公開した。仙谷は、38 というのは嘘のサンパチのことだろうか、とノーマルなことを言う。やっぱり、自分でもわかっていたのじゃないか！ なぜ中国共産党に気を使わなあかんねん。国家公務員法に違反している、と犯人捜しをしたけれど、結局国民の声で、処罰も何もできなかった。こいつも、強面でおおっていたけれど、日本を中国共産党に売るようなことしかなかった。陰謀が好きそうな顔をしている。

だから、国賊・売国奴と呼ぶ。

日韓戦後処理は不十分である、などと言い、韓国大統領も賢くないから、これにとびつく。国賊・売国奴と呼ぶ所以である。

#### 4. 蓮舫

こいつがしたことは、何かと評判が悪い。二重国籍。これでは、日本のことを考えるべき日本国の国会議員であってはならない。次が、事業仕分け。おとなしい女性まで「不愉快です！」と一刀両断。スーパーコンピューターでは、2番じゃだめですか？・・・アノネ、国際的に日本が活躍できるのは、科学くらいしかないのです。2番手でいいのなら100番手でも同じ。世界に伍して業績を上げるなら、1番、それもとびっきり図抜けた1番でないといけないのです。そんなこともわからない程度の能力しかないのをその担当にするということ自体、民主党には、日本国をどうしたいのか、どの方面で活躍しなければならないか、世界に貢献できることも含めて、わかっていない証拠です。

尖閣は、アメリカ軍にまかせて、こちらの福祉を優先しよう、などと何を寝ぼけたことを言っているのか。あきれてしまった。日本の領土の確保に、自衛隊が出動せず、アメリカの若者の血を流せ、と言うのか！・・・そんな姿勢だから、日米安保の消滅も考えなければならず、そうでなければ、核を持っている、何を考えているのかわからない国が虎視眈々と日本を狙っているのに、無防備の状態をわざわざ作ってやっているようなものではないか。・・・この程度の人間を抜擢しなければならないところに、人材不足が現れている。降って湧いたような政権で、慌てふためいていたことがわかる。

政治屋の考えそうなことであるが、まともな政治家なら、国賊と言われても

仕方がない、と考えるだろう。

#### 5.6.7.

あとの女3人は、確固たる政治信念をもたない、職業の選択を誤ったのである。なんでもかんでも自民党や安倍政権に反対を唱えていれば政治をしているようにみえるからの話。その寄って立つ基盤が朝鮮半島や中国共産党であることがわかるだろう。

反対をするなら、対案を示しなさい！との田中角栄の意見に賛成。

辻元アンパンマンなど、「わずか10人のために、北朝鮮と国交正常化できないのはおかしい」などと、のたまう。拉致被害者連の前で言ったら、袋叩きにあうかもしれない。おまえにとっては、北朝鮮との国交回復は、さまざまな面で「カネ」になるかもしれないが、10人を「わずか」という神経が理解できない。大東亜戦争での参謀連中の気まぐれで、いったいどれほどの人が、しかもおまえたちよりもはるかに優秀な人物が亡くなったか、考えたことがあるか？・・・北朝鮮との国交回復が、日本にとってどれほどの価値があるのだろうか？

アンパンマンは、モリカケ問題の時、隣の野田公園の売却に、そのころ国交副大臣だったか、同じように口をきいて豊中市に2000万くらいで、それこそ10億円ほど値引きさせたのをみんなが知らないとも思っているのか？・・・それなら、モリの方と比べても、安倍さんを責めるいわれはないし、その根底にあるのは、安倍総理の憲法改正をすこしでも遅らせようとしているだけにしかみえない。

この三バカ女の笑い話にもならない、罪悪ばかりが目立つ話はいくつもある。・・・2003年、別冊宝島が出て、その題が、「まれにみるバカ女」。50人くらいについて書いているのだが、どれをとっても納得できるような話ばかりである。いずれも正鵠を射ている。

たとえば、中島梓という作家がいた。何を思ったか、北朝鮮にいた蓮池さんのように帰国することができた人に対して、「拉致された人」としての類まれな悲劇的な運命を20年以上も生きてくることができたわけで、それは「平凡な大学を卒業して平凡に就職して平凡なサラリーマンになる」ことに比べて、そんなに悲劇的なことでしょうか。・・・つまり、「平凡」を否定し、凡庸な人生に比べて、拉致被害者の方がマシだ（！？）と言ってい

る。……どこをつつけば、そういう発想ができるのか。

横田めぐみさんについても、日本にいれば、平凡な一生を終えてしまうだけだが、拉致されたことによって、他人と異なった人生を送ることができて倖せだと思ふべきである、という趣旨のことを書いた。……自分で選んだ人生ならそうかもしれないが、彼女は、無理矢理拉致・誘拐され、言うことを聞くか、今死ぬか、の選択を余儀なくされたのである。あきらめながら、いつか母親のもとに帰ることができるかもしれないと、一縷の望みをもって生きたのである。……どこが倖せなのだ！ 自由がなく、精神的に変調を来したとして、どこがおかしいのか。自分は、日本にいて自由に好きなことを書いて、他人の人生について、どうのこうのと言えた立場にあるのか。よくまあ、他人事ですませられるなあ。

そういう厚顔無恥を絵に描いたような連中の話をまとめた本である。……罰が当たったか、1年もせずに死んでしまったのではなかったか。

田嶋陽子にしても、国会議員になりたいと社会党から出馬した。そしてすぐに飽きたのか、“社会党と朝鮮労働党との後ろめたい関係を教えてくれなかった”と社会党を離脱した。そういう関係を知らなかった、と公言したが、のちになって、「あの時点で知っていた」と前言を翻した。ではなぜ社会党に入党したのか、という話になるが、「あのような質問に答えて知っていた」などと言えば、どちらに転んでも地雷を踏むことになるから……と逃げる。この連中は逃げる時は、必ず、女であるという聖域に駆け込む。卑怯なり！……そのくせ、女は、男と比べて圧倒的に不利だ、と「ぬかしやがる」。それなら、初めから黙っている！

とまあ、そんなバカばかりの話がこれでもか、とでてくるのだが、栄えある最初の人物が辻元アンパンマンである。悪事はいくらでもでるが、阪神大震災のとき、多くの若者が救援物資の飲食物を背中に背負って歩いて被災者の応援に行く。辻元は、自分がつくったピースボートの連中を動員して、ろくに救援物資も持たず、印刷機を持参し、自己宣伝と政府批判のビラを配って歩くスタッフ。国会議員として救援にいくなら、まず被災者のことを考えるべきで、自分のことしか考えていないような人間は、国会議員であってはいけない、と思う。阪神大震災のような悲惨な天災まで、自分のために利用しようとするか！……ピースボートにしても、豪華世界一周クルーズとかいいながら、でてくる食べ物がサンマ。これは詐欺やで。怒って帰ろうにも海の上。PKO で自衛隊が派遣される。呼ばれ

もしないのに、Tシャツ姿で、うろうろする。道路をつくっている自衛官に対し、「環境への影響は?」。邪魔をしに行っている。さらには、自衛隊のテントから缶ビールを盗んだり、荒らしまわる。よくまあ、自衛官が怒らなかったものだ。……結局、自衛官は無視する。いくら女に不自由しても、彼等にも好みがある。

鈴木宗男を「疑惑の総合商社」というなら、おまえは「疑惑の人民公社」。秘書給与をちょろまかして、どこで使ったかわからない。「あれは、ワークシェアリング」とか「他の議員もやっている」など言い訳が子供じみている。いくら言い訳しようとも犯罪かつ前科者には変わりはない。なんで、こんな女に投票するのか、選挙民に聞いてみたいほど。心ある人は、その選挙区に住んでいることを、なぜか隠そうとする。

ピースボートは、北朝鮮を礼賛し続け、ペルーのフジモリ大統領を帰国させろと騒ぐ。意味を理解しているのかどうか。フジモリさんは、帰国すると、即、死を意味する。平気で返せと叫ぶ気持ちが理解できない。北朝鮮帰還運動で、地上の楽園と煽動し続けた朝日新聞などは、いったい何人の日本人妻が虐待や虐殺されたか、知らぬ顔を決め込んでいる。それと変わらない。

小林よしのりが、この女の狂態を面白おかしく書くと、国会議員の立場を悪用し、ヒステリックに反論し、謝罪を要求する。小林が、「国家権力者の言論弾圧とは断固戦う」と言えば、すぐに腰が引けて、沈黙を保つ。……この程度の人間に権力を持たせるのは間違っている。

他人を攻撃するなら、相手の言い分も聞くのが最低限の常識、いや良識だろう。

福嶋某は、究極の恥知らず、という。まあ、そんな顔をしている。人は見かけによる。存在そのものも恥ずかしいが、拉致被害者の悲痛な訴えを冷笑し、拉致はでっち上げと言い続けた。その間、金集めの集会で天使のコスプレをして背中に羽をつけてはしゃいでいたらしいが、参加者も笑わなかったのだろうか。そのままどこかに飛んで行ってくれてもいいのだが。

誰かがセクハラを受けたと騒げば、Me, too. の看板を掲げてデモ行進する。連中の顔をみたら、ちょっと腰が引けて、まちがっても触ったりするようなことができそうもないのんばっかり。本人らはまじめにしているらしいが、そうでもなさそうやで。オレらにも好き嫌いはありますよ！ ブラック・ジョークそのもの。

当然ながら自衛隊に反対。理由は、自民党が賛成だから。つまり国防の意識は全くない。賛成にまわったのは、村山トン吉の時だけ。反日活動家やら過激派の



集会には欠席したことの方が少ないのではないか。中核派 70 人の集会に出席し、「組織的犯罪対策立法に反対する」に賛成し、これを国会で追及されると慌てふためいて、狼狽すること甚だし、だったらしい。・・・泥棒の集まりに出席し、警察が泥棒を捕まえないようにしよう、という意見「泥棒規制法反対！」に賛成したようなもの。

グリーンピースという反捕鯨団体がある。非暴力を標榜する団体であるが、実際には、日本の捕鯨船に体当たりしたり、物を投げつけたり、暴力団体である。一度、ノルウェイの船にのりこんだところ、ボコボコにされて、外国人には暴行しない日本人を攻撃することにした弱虫連中である。この日本支部の代表が福嶋某の亭主だという。夫唱婦随で仲のいいことで。・・・こんなもん、自衛隊の軍艦が行って、大砲をぶっ放してやればおとなしくなるだろう。

土井たか子は、社会党の顔であった。北朝鮮に石岡亨さんと有本恵子さんがいることが、石岡さんの手紙でわかった。北朝鮮に顔が効くだろうと、有本さんの母親が土井たか子に手紙を持参し、救出を依頼した。ところが、北朝鮮から経済援助をもらっていきそうな社会党の重鎮である土井たか子は、あわてて北に手紙を渡すと、石岡さんたちは、その 2 か月後に消されてしまった。

ところが、土井たか子は、そんな手紙については、知らぬ存ぜぬとシラを切る。さすがに大人しい有本さんの母親が怒って、土井たか子は、日本の議員ではない、北朝鮮の代議士だ、と追及した。結局、土井は次の選挙に落選した。しばらくして死んだが、晩年を汚してしまった、と支持者は言うかもしれないが、晩年のみならず、ずっと汚し続けたのと勘違いしている。・・・選挙民も少しは賢くなったか。

土井は、原教晁氏や地村保志氏、横田めぐみさんらの北朝鮮拉致の実行犯、辛光洙（シン・ガンス）が韓国に拘留されていたのを、釈放嘆願書に署名した。これは、菅直人もそうで、安倍総理から、「間の抜けた話と言わざるを得ない」と明らかにされた。さすがの厚顔無恥どもも、グウの音もでない。

社会党は、旧ソ連や北朝鮮から援助をうけていたが、いつの間にか、沈没しかけた船からネズミが逃げ出すように党員が減り、今や 1%未満の支持率で、こんなもん、誤差範囲やで。存在価値がない。

2001 年 7 月。三大バカ女というらしいが、「大」に引っかかる。大政治家でも

ないし、大馬鹿の意味の大なら納得できる。だから、三バカ女トリオが、外務省で記者会見をしていたとき、消火器を噴射しながら男が乱入した。辻元、福島はまだ若いから反応が早く、記者や市民を放り出して、真っ先に逃げ出した。あとで言った言葉。「土井さんを守らなければ！」・・・笑かすなよ！

うそばっかり、真っ先に逃げだしたではないか。・・・社会党の性格そのもの。都合が悪くなると、誰かの陰に隠れよる。

## 8. 枝野幸男

首相にはならなかったが、「エビのトトまじり」で述べたように、民主党全体が、無能かつ他人をたらしこむだけで、政界を生きてきた女の口車に乗って雪崩を打ってなびいた。ここが情けない。ところが、枝野らは思想の違いで、はねとばされたときに、(子供の表現では、遊びに寄せたれへん。) 悔し紛れに新党を結成しただけのことで、確固たる国家像や理念があったわけではない。民主党政権時には、原発賛成の立場をとっていたが、今の党首になったら、知らぬ顔で否定派にまわる。だから、14%の支持率が今や 3%になっているのに、どこの誰の話か、という姿勢。安倍総理が健在のうちには、政権奪取など考えもしないし、またその能力も気力ない。支持者も呆れて、見放してしまった。すると、カラオケ三昧の毎日。「野党」としては、単なる数合わせにすぎない。

## 9. 野田佳彦

**原子力発電を許容していた。**

民主党政権では、PFI法（成長戦略・経済対策PT官民連携小委員会）の資料では、「水道施設」「医療施設」「社会福祉施設」の民営化が書かれている。安倍総理は、これをひっくりかえすのではなく、すでに行われている内容が混乱しないように追加法案をつくっただけである。バカは、これに反対するのである。8番目の人ですけど、くっついていった辻元らも同じ。(この女は、目ざといというか、沈没しそうな船の見極めが得意で、つねに陽が当たるところにいたがる。)

尖閣列島を国有化したのは、悪くないが、そのため、自衛隊がどれほど苦勞しているか。それを知るなら、自衛隊を憲法に明記することに反対するのはおかしい。

消費税を10%にするといったのは、野田内閣である。経済の状態も知らずに大蔵省の言いなりにきめるから、延期・延期の連続になる。株価は8000円台になる

し、円高で、輸出企業の悪化に拍車をかけた。……この結果、52人が離党し、少数野党になってしまったため、政権を投げ出さなければならなくなった。

そこで解散したのだが、ボクだけではなく、まともな国民は、民主党政権は、崩壊することがわかっていた。現有勢力の10%くらいになるのではないかと考えていた。

韓国との話でいえば、頼まれてもいないのに、朝鮮王室儀軌を譲り渡すという愚挙を犯し、対馬の仏像の盗難事件なども「盗難」であるにもかかわらず、返却されない状態をつくってしまった。

故岡崎冬彦氏が、民主党の集まりで、「野田首相は、最後になって仁をなした」と言ったところ、誰も異論を挟まなかった、という。つまりは、「大政奉還」であり、民主党政権でガタガタになった国政を自民党ならなんとかしてくれるだろうと、投げ出した話だけの話。……これは「褒めすぎ」だろう。あるいは勘違いか。……「仁」とは、論語にでてくる至高の善のことであるが、実際には、孔子の究極の夢であり、実態はそんなものではなかった。日本に入ってきたときに、日本人は、そういう「仁」が実行されていると誤解しただけである。

所詮、民主党如きに政策も理念も何もなかったことを、多くの失政から学んで身をもって知ることになっただけのことで、今でもそうだが、政権奪取とか倒閣運動など、かけらもない。

二大政党間での政権のやりとりなど、百年河清を待つがごとし。

10番目の政治屋は、安倍総理の改憲や世界に伍しての集団的自衛権や、その他の種々の改革路線に反対したいが、対案がでてこない。そこで、重箱の隅をつつくようにさがしまわったところ、モリカケ騒動がみつかって、これで1年半、歳費をもらいながら遊んでいた連中すべてがあてはまる。

この文章は、じつは平成最後のつもりで、4月中にはおおむね書いていたのだが、勘違いや念のため出典をたしかめたりしているうちに、1か月以上上梓することが遅れてしまった。

2019.06.10.